

『危険と判断して停止した』運転士をただちに乗務へ戻せ！ こんないいかげんな「再教育」は認められない

最近会社は、些細な事象やミス・事故を起こした人全員に対して、知識・技能がないとして「レベル把握」＝「再教育」を行っています。当初、会社がいていた「再教育」の目的は、同種事故等の再発防止及びサービスレベルの向上であり、そのために知識・技能を一定のレベル以上に引きあげることでした。しかも「再教育」の対象も運転士は、責任事故等を発生させた場合、車掌では、責任事故等もしくは営業に関わる問題事象を発生した場合など限定的だったはずですが、それがいつのまにか、何か事象が起きれば責任追及の事情聴取と時系列等報告書、対策シート、始末書など、さらに「レベル把握」＝「再教育」です。これは、事故の再発防止ではなく「イジメ」や「懲罰的措置」であり「極度のプレッシャー」を生むだけです。

こんないいかげんな「再教育」は認められない！！

『危険と判断して停止した』運転士の「再教育」の経過は、最初の「レベル把握」試験で不合格となり、会社から「再教育」とペーパー試験を行なうことを言われました。そして、ペーパー試験2回目で93%をとり合格しました。本人は、これで運転士として復帰できると思ったのもつかの間、3日後にシミュレーターをやると通告されました。当然ながら「再教育」を実施する場合は、この間該当する項目を本人に通告していましたが今回はそれもなく強行されました。

次のシミュレーター試験は、3種類の応急処置を行います。会社は、チェック項目をあらかじめ用意して採点します。しかし、試験を受ける運転士には何をチェックするかもわからないのです。当然、毎月の訓練（わずか1人10分）で経験している対応しかできないのは当然です。これをクリアするには、担当管理者の裁量とシミュレーターを使って何回も何回も練習しない限り無理です。

つまり、会社のやっている「再教育」は密室の中で誰しもがはかれる基準もない担当管理者の裁量で合否がどうにでもなるという代物です。

こんないいかげんな「再教育」は認められないのは当然です。まして、合否の通知もなく運転士を剥奪しての東京駅への転勤など認めるわけにはいきません。

私たちは、このような「再教育」制度を許さず、乗務員の判断が優先する職場を創るために闘います。共に闘いましょう！！